



### 「継承と改新」の行方

東京都図画工作研究会 理事長  
平田 耕介(新宿・愛日小)

飯澤校長先生を会長とした新体制で半年を迎えることができ、皆様には、心より感謝申し上げます。  
さて、都図研では、これまでの取り組みを継承しつつ、次期学習指導要領の公示に伴い、様々な場で、研修会や勉強会を行っています。6、7月に実施した研修会では、延べ参加数が360名を越え、多くの方がこれからの図工について関心をもっているのだと実感しました。こうした中、今、都図研に求められていることは、「継承と改新」だと言えます。変わらないこと、変えないこと、変えていかなければならないことを、組織、研究、研修といった視点で再考していくことです。様々な考え方があって、図工という教科は、ひとつになるのではないのでしょうか。これからの図工教育のために、子供の姿と造形性について、より具体的に捉え、図工で培うべき力を確かめながら、歩むべき道を探っていきましょう。

月	9月以降のおもな活動予定	備考
9	5日/理事研究会(立川:第一小) 8日/研究局公開授業(江東:有明小)	
11	17,18日/全造連・全小図連総会・関プロ・長野大会(佐久市)	
12	8日/都図研 城北大会 12日/理事研究会(板橋:板橋第六小) 役員会	
1	都図研活動報告書編集開始(各局報告書まとめ開始) 都図研ゼミ公開授業(1月後半頃) 23日/都認定研修Ⅱ(立川:第一小)	
2	城南大会 プレ大会(2月初旬頃) 16日/教科提案部公開授業(小平:第三小) 長野県美術教育研究会合同研修会 12~18日/都展(都美術館) 都研究推進団体研究まとめ報告書作成	
3	8日/理事研究会総会・役員選挙(新宿:愛日小) H29都図研活動報告書発行 役員会	

#### <特別委員会/教科提案部について>

都図研理事長 平田 耕介(新宿・愛日小)

今年度より発足した「教科提案部」は、テーマ設定や部としての方向性などを9月の理事会で報告します。理事会で配布されました資料もご覧ください。今後、公開授業【2月16日(金)小平市立小平第三小学校】に向けて準備を進めます。当日は、提案部と参加者で協議会を予定しています。充実した会になることを願っています。

## 城北大会 第56回 東京都図画工作研究大会

大会テーマ「こうしたい!」~図工のこたえは子供の中にある~

開催日:平成29年12月8日 in 足立・関原小 大会実行委員長 岩田 芳子(足立・栗原北小)

「図工には、間違いとかなないんだよね!」と子供に声をかけられました。間違えちゃったと落ち込んでいる友達を励ましている所のようなのでした。「そうね!もし自分が間違えちゃったと思っている所があるんだったら、自分がいいと思うように変えていけばいいよね!いろいろ考えて工夫してみようか!」こんなやり取りをよくします。

そうです。図工には決まった答えというものはなく、それぞれの子供が、もの(色や形)とテーマをもとに、自分で考え発想し、自分で選び判断し、自分で表現していく、全てが自分で自分を決めていく時間です。その試行錯誤の中で自己決定を繰り返し、自分の現実に向き合い、自己実現し、自分を発見していくのではないのでしょうか。

子供が、ものや人に触れ、体全体で感じ、自分で考え、工夫し、試したりしながら表現する、図工の活動は、子供がもっている資質・能力を活性化させ、思考力・判断力・表現力を育んでいきます。それは、人が生きることにとって、とても重要であり、新学習指導要領でも柱の一つにあげられています。

これらの事を大切にして、大会に向け準備・研究を進めています。当日は、1~6年12学級、特別支援学級1学級の全13学級の授業を通して、子供の図工のこれからを共に考えていきましょう!お待ちしております!

～お知らせ～ 今年度、突撃!となりの図工室は、各地区(計8ブロック)の図工専科から取材を行います!取材して欲しい図工室がありましたら、紹介してください!

川一連載A

## 突撃!となりの図工室 西多摩「羽村市立栄小学校の図工室」

学校でひとつの図工室。普段はなかなか見ることのない他校の図工室を訪れて、気になる所を突撃取材!



今回の訪問先は、羽村市立栄小学校の門脇あずみ先生の図工室です。図工室に向かって歩いて行くと、まず目に入るのが廊下の掲示物です。図工便りや展覧会のポスターの他に、子供たちの作品が掲示されています。入り口のドアには、子供たちの小さな作品も掲示してあり、思わず笑顔になってしまいます。

図工室内にも、自然と子供同士で作品を見合う仕掛けがあります。後方と窓際の三方向にワイヤーが張ってあり、作品を吊ることができるようになっています。授業が終わった後に作品を掲示していると、他の学年の子供たちが作品を見ていくこともあるそうです。

また、作品棚や乾燥棚には、小さなマジックテープがはってあります。これは、作品に応じてクラスの表示を入れ替えて、子供たちが自分で作品を置くことができるようにするためだそうです。このアイデアは、早速2学期から自分も取り入れてみようと思いました。

小さな材料は、「ちっちゃいものクラブ」という名前が付いた箱の中に、切ったペットボトルに整頓されています。普段は準備室にストックしておいて、必要に応じて中身を変えながら渡すそうです。

門脇先生の図工室は、子供たちが楽しく活動できるアイデアがたくさんあった、わくわくする図工室でした。

事務局・広報/取材担当者：下田 奏枝（東大和：第五小）

川一連載B

## 局長&副理事長からのメッセージ【研究局長より】

～東京都図画工作研究会の各局・各部の長から運営内容についてお伝えします～

研究局テーマ「色々な子供が生きる時間 ～ものとの多様な関わり～」

今年は学習指導要領の改訂が行われました。新指導要領の柱となる理念は、開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、資質・能力、主体的対話的で深い学び、教科等の見方・考え方などがそれにあたります。個々の教科に於いては資質・能力を、①知識及び技能、②思考力判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理し、各教科を「なぜ学ぶのか」、「それを通じてどのような力が身に付くのか」を明確化しています。図工の目標もそれに伴い「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のように育成することを目指す」以下資質・能力の①～③に合わせた目標が設定され、図画工作科を通してどのような力が付くのかの明確化が図られています。

一方で OECD の報告から、芸術教育には創造力、想像力、コミュニケーション能力、チームワークといったイノベーション（革新）に力を与えるようなスキルを育成することのできる可能性があると言われていています。図工の学びは他教科のように数値で推し測れるものとしてエビデンス化されてきていない現状があります。しかし、報告からも造形教育が育む資質・能力はまだ大きな可能性を秘めていることがわかります。研究局では、日々の実践や研究授業、各市区町村の研究に目を向け、根拠だけでは語れない図工の可能性について考えていきます。そして、これからを生きる



子供たちに向け、造形教育が子供たちに果たす役割を大きな視点で捉えていくことを目指し、“子供が実感すること、自己決定すること、創造性を発揮すること”を柱に研究を進めて参ります。その第一歩として9月8日(金)に公開授業を行います。参加された方々と共にこれからの図画工作について考えていきたいと思ひます。

### 研究局公開授業!

公開  
授業

講師：福岡貴彦先生

題材名：「ここにいたい特別な窓」5年

授業者：内藤豪先生 江東区立有明小

9月8日(金) 13:30～16:45

研究局長 栗本 圭（国分寺・第四小）